



●茨城ワーカーズ・コレクティブ協議会総会開催

5月18日、総会を開催しました。

今年度も地域の中に働く場を創出し、事業を通して誰もが暮らしやすいまちづくりを目指します♡



*2018年度の活動報告

- 3ブロックで生活クラブと共催の「働き方説明会」を開催し、働く人を募集しました。
- ワーカーズ・コレクティブとその活動を知らせるチラシ「Hello♡ワーコレ」を各ブロック1回ずつ発行しました。
- ワーカーズ・コレクティブの活動紹介チラシを作成し、生活クラブ組合員と地域に発信しました。
- ケアサービス事業者研修、全体研修（活動報告と交流）を行いました。
- 基金を管理運営しました。

*2019年度の活動計画

- 3ブロックで「働き方説明会」を開催し、働く人を募集します。
- 「Hello♡ワーコレ」や活動紹介チラシ、リーフレットを活用し、ワーカーズ・コレクティブとその活動を発信します。
- スキルアップのためのケアサービス事業者研修、全体研修を企画します。
- ワーカーズ・コレクティブの設立を支援する「そらいろ基金」、市民事業を支援する「ゆめいろ基金」、代理人運動を支援する「ネットワーク基金」を運営します。

●ゆめいろ基金助成報告

茨城ワーカーズ・コレクティブ協議会の正会員または協議会に参加する意思を持つ団体が、事業を行うときの支援のための基金「ゆめいろ基金」に、食のワーカーズ・コレクティブ「黄色いりんご」から助成申請がありました。「黄色いりんご」は、安全・健康・環境に配慮した食事作りをし、食べることの大切さを伝え、地域の人達と共に考えていくために2010年に設立されたワーカーズで、水戸センターを拠点にお弁当やお菓子などを販売しています。

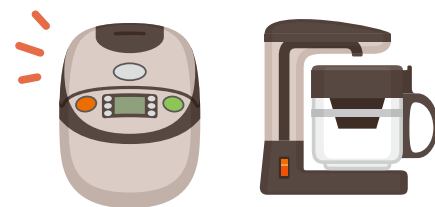
5月7日に書類審査、5月18日に最終審査を行った結果、以下の通り助成が決定しましたのでご報告します。



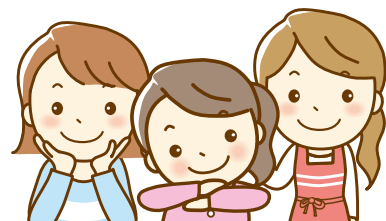
団体名：食のワーカーズ・コレクティブ黄色いりんご
 事業名：炊飯器、コーヒーメーカー、エプロン、厨房用靴の購入
 目的：大量注文への対応、外部へのアピール等
 助成金額：50,000円



助成金を受け取る黄色いりんごの蛸澤さん(左)



基金事業のご紹介



茨城ワーカーズ・コレクティブ協議会は3つの基金を運営しています。詳細は、お問い合わせください。寄付・カンパも募集しています。ご協力いただける場合は、最寄りのワーカーズにお声かけいただくか、ご一報の上、銀行振込にてお願いします。

【振込先】中央労働金庫 つくば支店 普通 5036349 茨城ワーカーズコレクティブ協議会

そらいろ基金

新たにワーカーズ・コレクティブを設立する際の支援のための基金。地域をより良く、豊かにすることを目的に作られるワーカーズ・コレクティブの設立を応援します。

ゆめいろ基金

茨城ワーカーズ・コレクティブ協議会の正会員または協議会に参加する意思を持つ団体が、事業を行うときの支援のための基金。まちづくりのための市民活動を応援します。

ネットワーク基金

ネットワーク運動を始めるときの支援のための基金。自分たちが望むまちづくりのために、代理人運動に挑戦したいという意思を示す団体を応援します。

若林ともこさん 講演会

生活クラブ運動でまちづくり

2019年度の全体研修は、若林ともこさんをお迎えしお話を伺いました。「生活と自治」5月号にも掲載されたように、長年地域で子育て支援活動を行っていらっしゃいます。講演の内容を、抜粋してご紹介します。



若林ともこさん（横浜市議、神奈川県議を経て現在NPO法人ピッピ・親子サポートネット副理事長、立憲民主党参議院比例第18総支部長）

空き家でデイサービス

私の出身は広島です。今住んでいる横浜に引っ越したとき生活クラブの組合員になり、そこで自分たちで自治して暮らしを良くしていこうという人に出会えたことが大きな転機になりました。

ワーカーズ・コレクティブ立ち上げのきっかけは、2002年、空き家を何か市民事業に使うって欲しいという申し出をいただいたことです。私たちは、自宅で暮らす感覚で過ごせるデイサービスを作ろうと思いましたが、それには改装が必要で、施工業者から手付金として420万円を1週間以内に用意してくださいといわれました。

お金は誰が貸してくれるの、誰も貸してくれないじゃないと思ったときに「若林さん何を言っているの。ダメだと思って声をかけるのよ」と組合員リーダーに言われて声をかけてみると、なんと420万円というお金が3日間のうちに集まりました。

私は、もう本当に胸が震えたというか、あのとき背中を押してもらったあの感覚というのは忘れられず、その後の活動で迷うときにいつもあの時のことを思い出します。さらに感激したこと、お金を寄せてくださった方は私の知り合いばかりではありませんでした。知らない名前がいっぱい並んでいました。それは、ワーカーズ・コレクティブを作る、あ、生活クラブなのねとか、呼びかけた仲間が支部委員長していましたとか、ずっと地域で班で活動していましたという、生活クラブへの共感、もうそれで信頼してお金を寄せてくださったんです。



私は、顔の見える関係で一緒にやることもすごく大事だけれど、まだ会ったこともない、でも私たちが立てた市民政治や市民事業、ワーカーズ・コレクティブという旗をちゃんと遠くから共感してそこに思いを寄せてくれている方たちがいて、この運動は進んでいくんだと思います。各地でその運動に志を持って力を尽くしていらっしゃる方がいるということを感じて、やりたいと決心することができる。なので、私の活動の原点は、あのときの420万円なんです。

各地でその運動に志を持って力を尽くしていらっしゃる方がいるということを感じて、やりたいと決心することができる。なので、私の活動の原点は、あのときの420万円なんです。

働いていてもいなくても預かる保育園

また、私が市議だったとき、NPOでも保育園の整備助成がされるよう見直すべきと議会で発言し、それが制度になり、自分が認可保育園を作るときにはNPOでも整備助成が受けられて保育園もめでたく開所できました。

この「働いていてもいなくても預かる保育園」をやってみると、利用者は決して働いている人ばかりではなく、子育てがづらいという人もいます。今、迷惑かけちゃいけないとか、子どもを泣かしちゃいけないとかお母さんたちって見えないプレッシャーを沢山持っています。SNSでも自己責任が強調され同調圧力もあり、子育ては私の時よりもっと大変だろうなと思います。

そういうお母さんが、私たちの保育園のチラシを握りしめて「もう何ヶ月も来ていれどか迷って」とおっしゃいます。「いいんですよ。お母さん本当に頑張りましたね」と伝えると、涙を流される方もいます。預けていい、自分の子育てをきちんと受け入れてくれる、そういう地域社会があるところ、みなさん安心を持たれる、そういう一時保育をやりました。

週3日以内の人は認可保育園には入れない子育て支援の対象者で、4日以上働く人は認可保育園に入れる就労者。働いている人といない人にはいつも施策の壁があります。働いていてもいなくても預かる保育園というのは、それを取り払う積み重ねでもあったわけで、一時保育という切り口は小さいけれども、そこから見えたことはいろんな社会の課題であるし、変えていくべき政治のテーマでもありました。

実践から制度へ

次に取り組んだ、障がいのある子どもたちの放課後の居場所作りは、横浜市の制度になり、今は国の制度に紐づいています。新しい課題にぶつかったとき、まずはやってみようというひとりの人に向き合ってみると、これは、この人だけの問題ではない、社会全体の問題だということ、やはり制度を作ろうということになります。こうして、実践の中で見えたことが少しずつ制度として動いてきました。

生活クラブ運動で得られたもの

横浜市では、生活クラブの組合員、ワーカーズ、神奈川ネット*の3者が協力して取り組んだ結果、ヘルパー資格取得費用の助成が実現しました。

生活クラブでは、組合員リーダーを中心に、フィールドワークや学習会やグループディスカッションを計画的に重ねていて、年に1回OCRで政策提案のアンケートをしています。その回答の中で、在宅でのヘルパー派遣やデイサービスが欲しいという意見が多かったのですが、それにはヘルパーが少ない。そこで、ヘルパーを増やすために資格取得費用を助成するという政策を提案し、実現したわけです。

使う側（組合員）の声と事業者側（ワーカーズ）の声を合わせ、市民政策提案で勝ち取ったということで、組合員もワーカーズも政策提案のおもしろさを実感できました。

統一地方選では組合員リーダーが、新人でたくさん代理人*へチャレンジしてくれて世代交代もできました。誰しもが政治に参加してまちをつかっていく、自治をしていくというのは、生活クラブの運動の中で私たちが学んだことで、その価値は本当に大きいと今でも思っています。

平和な社会をめざして

今日は少し平和の話もしたいと思います。安心・安全な暮らしのベースというのは、やはり市民の自由や人権が保障された社会というのが絶対ベースに必要だと思っています。私は広島生まれです。父は10歳の時に爆心地を歩いていますが、その記憶を83歳まで語りませんでした。私は、昨年初めて父から原爆の話を知りました。父は、もう人生があまり長くないと思い、また、今の社会情勢を非常に憂いており、すべてのベースにある平和を強く意識してのことだったと思います。

そういう中で、私は憲法を守るため、憲法を変えるか変えないかというよりも、今あるものをどう生かして平和を作っていくかということにずっとこだわって、すべての活動を進めてきました。今の危うい社会情勢の中で、改めてすべての人々にとって最も大事な平和な社会というものを、本気で自分たちの手でちゃんと取り戻せる、そういうことを今日はみなさんに最後に伝えたいと思います。

今回、参院選全国比例区にチャレンジします。私がワーカーズの活動や運動の原点で志した「ともに暮らす、ともに働く」ということは、きっと多くの方が共感・連帯くださることだと思います。これほどまでに社会が分断され、もう一度作り直さなければいけないというときに、市民の力で政治を変えていくということこそ、今一番、私たちが、いえ、まず私がやらなければいけないことだと思っています。ぜひそこに共感をいただいて、また連帯をいただいて、このチャレンジをみなさんと一緒に成功させたいと思っています。



* ネット、代理人とは

生活クラブ組合員の有志が地域ごとに自立的な政治団体（地域政党、略称「ネット」）を結成し、市民の政治参加を進めるため、地方議会に代理人（議員）を送っています。現在、茨城で5名、全国では100名を超える代理人が活動しています。